

---

# 『伝えておくれよライカ』

四季 ワタリ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『伝えておくれよライカ』

### 【著者名】

ZZコード

N5072P

### 【作者名】

四季 ワタリ

### 【あらすじ】

今はもういない君は、僕たちに希望なんかよりもっと大切なものを与えてくれた。短い言葉で何かを残せたら、との思いで書かれた短文たちの集合体。

## 『ワープ不可注意報』

『ワープ不可注意報』

### 子供の頃の話

月が欲しくなったから  
そこら辺に落ちていた  
ガラクタを積み上げた

月が本当に欲しくなったから  
家の中で使っていた  
色々な物を積み上げた

月が必要不可欠になつたから  
大切に大切に保管していた  
両親から貰つた宝物も積み上げた

高く高く積み上げていけば  
いつかは月にだって届くと思つてた  
だから諦めなかつた  
少しずつどうしても  
積み上げていくことが  
月に近づく一番の方法だと信じていたから

そしていつしか大人になり

僕は君のことが好きになった  
だから今度は言葉を重ねていこう  
拙くて儚い言葉でも  
尽くすことによって  
少しでも君に  
近づくことができると思つから

『クラムボンが死んだ日』

『クラムボンが死んだ日』

「クラムボンは笑ったよ」

「クラムボンはかぱかぱ笑ったよ」

「クラムボンは跳ねて笑ったよ」

与えられたこれらのヒントをもとに必死に想像力をかきたてて考えた

クラムボンとは何だったのか？

蟹の泡？

蟹の母親？

それとも光？

拡散した思考は収束することなく

ただただ時間がだけが過ぎ

正体はついに分からないまま

いつしかクラムボンといつ言葉すら忘れ

僕は大人になつていた

最終的には死んでしまったクラムボン  
いつたといつ死んだのだろう?  
いつたい誰が殺したのだろう?

もしかしたら

クラムボンの存在を忘却の彼方に追いやってしまった時に  
僕自身の手で殺したのかもしれない

## 『クラムボンが死んだ日』（後書き）

クラムボンとは宮沢賢治の短編『やまなし』で蟹たちが観察していた謎の存在のものです。私が小学生の頃は国語の教科書に載つてたけど、今でも載つてゐのかな……？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5072p/>

『伝えておくれよライカ』

2010年12月25日19時27分発行